

災害発生後の避難生活の支援対応に関する ドローンの活用方策の検討

照本清峰

関西学院大学建築学部
terumoto@kwansei.ac.jp

災害発生後、被災地域の中には通常医療の継続を必要とする人たちは多くいる可能性がある。また、過酷な避難生活が続くと健康を害する場合もある。一方で被災地域が広域に及ぶ場合、被災地域内の陸路での移動は困難になることもあり得る。そのような状況では、必要な医療資源を被災地域・被災者に供給することが必要になる。そこで本研究では、災害対応に関する物資搬送面からのドローンの利活用方策を検討することを目的としている。ドローンによる空路搬送により、陸路が遮断された場合にも比較的軽量な医薬品等の医療資源を供給できることが期待される。そのためには、事前から対応計画を構築しておくことが重要である。本研究では、行政機関と住民間での協議及び対応訓練を通じた課題の導出、それらをもとにした対応方策のあり方を検討する。

キーワード：孤立地域 避難生活 ドローン 物資搬送 対応訓練